



Facebook 日野 公三 明蓬館高等学校 理事長兼校長より抜粋

子どもが学校に行きたくなくなった時に何を考えれば良いのか

子どもが学校に行きたくなくなった時は学校に行きたくない、背景を探ってください。あるいは日頃から探ってみてください。聞かれないことを聞かれるとなおさら気持ちが塞がれます。「なんで・・・」「なぜ・・・」という質問は子どもからすると親や大人の価値観が透けて見えるので、責め口調に映りがちです。「学校のどこだったらいられる?」「学校のどんな時間だと楽しい? つらい?」「どの先生が好き?」なるべく楽しいことが思い浮かべられるような、体温が上がるようなコーチング的な質問を心がけてください。

『・・・しないとダメ』といった語尾が否定形に終わるものもなるべくなら避けてください。「ちゃんと」「きちっと」「しっかり」という身体言語もなるべく避けた方がいいでしょう。学校に行きたくない時が続くと、一つひとつの言葉に神経質になります。なんとかして学校に行かせたいという大人の心理をすぐに読み取ってしまいます。そうするとこわいことは、親が、つらいことや不安なことを打ち明ける対象でなくなることです。言葉に出せる対象が少なくなることは心が塞がることにつながりやすくなります。子どもの気持ちが落ち着いて話し合える関係性を保ち続けてください。

学校に行ってくれないと親もつらい、困ることは色々あるでしょう。それはよくわかりますが、この時こそ親子の絆が深まる時です。「長い人生の中で、若い時に挫折を経験した人は強い」「これが年取ってからの挫折でなくてよかった」と思うくらいでいいのです。もしも時々なら学校に行きたい、行ってもいい、こんな時なら行きたい、などという本音が聞こえたり。前に進むエネルギーが極端に低下して、家から、あるいは部屋から出られなくなった時など、いろいろなケースを想定して、親から情報収集に動き始めてください。適応指導教室、校内フリースクール、私立のフリースクール、オルタナティブスクール、オンラインフリースクール、発達課題などがあれば特別支援級、通級指導学級などの選択肢がわかり、情報が入手できるでしょう。学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）も全国各地に生まれています。悪いことばかりでなく、暗闇の向こうに青空が見えてきたときの喜びは格別のものがあるはずと、今から楽しみにして臨んでください。

前向きな思考の過程には、時として単純化が必要です。くれぐれもわが子を問題視しないで下さい。人と比べるのも、よその家庭と比べるのもなしです。親であるご自身を責める必要はありません。